

第2章

Parrot's Law

Parrot's Lawとは

Parrot's Law とは、私の学習経験をもとに作った英語の学習法です。大学での講義やウェブサイトでのみなさんとのやりとりを通じて改良を重ねてきました。本書のメインの章ですので、ぜひ練習に参加してください。

Parrot's Lawの最大の特徴は「完全に身につくまでたくさん繰り返す」という点です。数多く繰り返すことで、頭のなかに英語を英語のまま処理する回路を育てることができます。

また、自分の好きな素材を題材に使えるというのもポイントです。興味がある題材なら、繰り返しも苦になりません。語学の学習は、何よりも続けることがいちばん重要なのです。

Parrot's Lawは、以下の3つのステップで構成されています。括弧内は繰り返しの数です。

- ステップ1 歌を使った練習（1曲300回）
- ステップ2 短い会話を使った練習（2分程度を100回）
- ステップ3 少し長い題材で練習（10～15分程度を100回）

基本的なやり方や考え方は、ステップが上がっても変わりません。少量の素材を繰り返し聞いて、自分の口で発音します。ステップがすすむと、練習素材のレベルが上がっていきます。

本書で取り上げるのは、歌を使ったステップ1と、2分程度の短い

会話を使ったステップ2の練習です。

ステップ3については、ご自分で好みの題材を用意してやっていただきます。もちろん、ステップ1やステップ2も、本書以外の題材で練習してもかまいませんが、少なくともはじめは本書にしたがったほうが効率的だと思います。

たくさん繰り返す理由

たくさん繰り返す理由は、あなたの口や脳にしみ込んだカタカナ発音を完全に追い出して、英語の発音を口と脳に刷り込むためです。

第1章で説明したとおり、日本語と英語の発音方法は、大きく違います。英語を話すときは、日本語の発音を忘れて英語モードで話す必要があります。

しかも発音は、理屈がわかっただけではできません。日本語では使わない筋肉を使いますし、これまでやったことのない口の動かし方も必要です。勉強というよりは、新しいスポーツをはじめののに近いと考えてください。

たとえばテニスなどでも、地道な反復練習を重ねることで、実際のプレー時に何も考えずに自然にスイングができるようになるでしょう。英語についても、それと同じ状態を目指します。聞こえてきた英語について、日本語を介さずに力をぬいたまま聞けるようになることを目指します。

CD収録曲の簡単な紹介

付録のCDには、以下の5曲を収録しました。まずはざっと解説を読みながら、聞いてみてください。